

◆Kids' Voice -世界の子どもたちからのメッセージ- 出版記念パーティー

12月10日(水)、コンラッド東京 チャイナブルーにて、Kids' Voice出版記念パーティーを開催致しました。待望の画集の完成を祝い、200名を超える方々にお集まり頂きました。シックな空間に彩を添えたのは、展示された子どもたちの絵の数々、そして主役の画集Kids' Voice -世界の子どもたちからのメッセージ-。美味しいお食事とキッズ・アース・ワインとともに、子どもたちからのメッセージをお楽しみ頂きました。またパーティーでは、子どもたちの絵とラグジュアリーな品々のオークションも開催。300,000円を超える寄付金が集まりました。この収益も子どもたちの支援活動に還元させて頂きます。皆様のご協力に心より御礼申し上げます。協力:CELINE、CONRAD Tokyo、GUERLAIN、Lumiere、shu uemura、SWAROVSKI(アルファベット順)



Kids'Voice -世界の子どもたちからのメッセージ-
全国の書店にて販売中。子供地球基金ホームページでもご注文頂けます。
発行:美術出版社
企画・監修:子供地球基金
アートディレクション:岡本一宣(岡本一宣デザイン事務所)
序文:千住博
版型:225mm x 185mm、ソフトカバー 240頁(フルカラー) 価格:2500円(税別)

◆ウエスティンホテル東京 クリスマスチャリティ

2008年もウエスティンホテル東京1階ロビーには、大きな大きなクリスマスツリーが飾られました。クリスマスの温かい雰囲気の中、12月23日(火)~25日(木)の3日間に開催されたクリスマスチャリティコンサート。今年も温かい歌声やピアノ、そしてハーブの音とともに、子どもたちが描いた絵もお楽しみ頂きました。インドネシア、中国、ハンガリー、ブルガリアといった国々の子どもたちが描いたクリスマスの絵がツリーに添えられ、ロビーはより明るく、温かい雰囲気になりました。そしてもうひとつ、ウエスティン東京ならではの取り組みが、クリスマスチャリティクッキー。このチャリティコンサートで販売される、パティシエ特製のクッキーの収益を子供地球基金にご寄付頂いています。今年も92,000円もの寄付を頂きました。皆様のクリスマスの温かいお気持ち、子どもたちを包む支援となります。



◆ますます充実! 子供地球基金チャリティグッズ

この春、子供地球基金のチャリティグッズがますます充実します。まずは、Tシャツ。パドゥリオン、VISという2つのブランドから新発売です。それぞれのブランドの持ち味と子どもたちの絵の個性がマッチしたおしゃれなデザインのTシャツは、かわいいだけでなく、勿論チャリティ商品として、収益をご寄付となるものです。お気に入りをご是非見つけてください。

■着心地の良さでカットソーが人気のパドゥリオンから登場するのは、イギリス、フランス、スロバキアの子どもたちが描いた幾何学的な絵がモチーフとなった3デザイン。色はホワイトとグレーの2色から、形も半そで、タンクトップ、ロングタンクトップの3型からお選び頂けます。



WEB SHOPおよび直営店PAS DE LION tiroirにて販売中。
半そで ¥7,000(税別) / タンクトップ ¥6,500(税別) / ロングタンクトップ ¥7,500(税別)
<http://www.tiroir-pdl.com>
©KIDS EARTH FUND-PAS DE LION

■若い女性を中心に人気のブランドVIS、pour la frime, gaminerie。ここでも子供地球基金をサポートする商品が完成。様々な国の子どもたちが描いた絵のデザインがかわいく素敵にTシャツになって登場です。そしてお買い上げ時に商品を入れるショッピングバッグにも、ブルガリアの女の子の絵のデザインが、また3/26-4/6には、¥7,000以上お買い上げのお客様にはマウスパッドのプレゼントも! 今年の春は、子どもたちの絵デザインのTシャツを、是非ワードローブに。



全国の直営店舗にて発売中。各 ¥2,940 ~ ¥4,410 / 6種類
<http://www.visjp.com>

◆キッズ・アースなパン

リョーユーパンから、子どもたちの絵がパッケージになったパンが登場です。楽しさとおいしさにこだわって出来上がったのは、「ホットケーキなパン」、「牛乳仕込みのカレーパン」、「デニッシュリング」の3種類。思わず手に取りたくなるかわいいパッケージと、お子様から大人まで、誰もがおいしく頂ける優しいお味が魅力です。この「子供地球基金パン」は、収益の一部が子供地球基金を通して子どもたちの支援活動の為の寄付となるチャリティ商品です。おいしいパンが、子どもたちの笑顔に繋がる一菜一食、おいしいチャリティの形です。九州を中心に西日本地区で3月1日より発売中。4月には新たに「いちごミルク」、さらに5月には「チョコボール」も子供地球基金パンに仲間入り。ご期待ください。



■ NEW MEMBER 新規にご入会いただいた方々です
【個人会員】石川啓子様 太田歩様 小佐野愛様 小佐野唯様 杉野雄二様 須藤隆志様 藤枝佐久子様 逸見啓子様 横山真由美様
【法人会員】有限会社浅見デザイン事務所 株式会社ジュン 株式会社ベネフィット・ワン ザ・バック株式会社 株式会社リョーユーパン
(2008年11月1日~2009年2月28日・敬称略/五十音順)

子供地球基金 / KIDS EARTH FUND 〒150-0013 渋谷区恵比寿 3-25-2 TEL:03-5449-8161 / FAX:03-5449-3962
E-mail: info@kidsearthfund.jp / URL: <http://www.kidsearthfund.jp/>



ママとパパとわたし / Mummy father and I
セヴィンチ・セヴギン / Sevinch Sevgin
ブルガリア / Bulgaria
6歳 / 6 years old
女 / Girl

KIDS EARTH HOME Project キッズ・アース・ホームプロジェクト

ベトナム、カンボジアのキッズ・アース・ホーム



2月6日よりベトナム、カンボジアのキッズ・アース・ホームを訪問。物資支援ならびにアートワークショップを実施しました。

ホーチミンにある第4号キッズ・アース・ホーム。ここは、ストリートチルドレンと呼ばれ、路上で宝くじ売りや新聞売り、靴磨きなどの労働により生計を立てている子どもたちに、無償で教育を提供する為、2002年に設置した学校です。現在、孤児をはじめ38人の子どもたちがこの施設で生活しています。

今回、実施したアートワークショップは、Painting & Planting Project。参加した子どもたちは、4本の植木と花を植樹し、環境について学びました。貧困地区に育ち、ホームに暮らす子どもたちにとって、木を植えるのは初めての経験。地球環境について、将来について皆で考えるという良い機会となりました。土に触れ、木に触れ、これを絵に表現した子どもたち。今はまだ細い木が、水と栄養を得て、ぐんと大きく力強くなった様子や、町中が木や花でいっぱいになった様子を描きました。



カンボジアの第6号ホームでもアートワークショップを実施。この学校には、400人もの孤児やストリートチルドレンが通っています。昨年完成した校庭の脇に、木を植え、大きくなりますようにとの祈りをこめて、川から運んだ水をやりました。

その後、子どもたちは2つの教室に分かれ、ペインティングを開始。大きなキャンパスに、初めての植樹を通して感じたことを元気に描きました。完成した2枚の作品は、子どもたちの未来に向けて



の夢や希望に溢れるものとなりました。

校庭に植えた木とともに、子どもたちが元気に育っていきますように。そして少しでも心豊かな暮らしを立てるために、笑顔で絵を描くことが出来るように、子供地球基金は物心両面から支援を続けていきたいと考えています。



国立武蔵野学院から、カンボジアのホームの子どもたちへの贈り物として2つの作品が寄贈されました

KIDS EARTH CAR Project

キッズ・アース・カープロジェクト

メリー・キッズ・クリスマス・プロジェクト

子供地球基金では、今年も児童養護施設や小児病棟の子どもたちへクリスマスプレゼントを寄贈する「メリー・キッズ・クリスマス・プロジェクト」を実施しました。

クリスマスシーズンが近づくと、様々な企業からお預かりしたたくさんプレゼントのラッピング作業が始まります。絵本や文房具、おもちゃやお菓子など、プレゼントに用意されたものはどれも子どもたちが大好きで喜びそうなものばかり。ラッピングには、子どもたちの笑顔の為に、たくさんの方々がボランティアとして参加していただきました。

今年は、17施設、1300人の子どもたちへ、温かい心のごったプレゼントを届けました。

皆様の温かいご協力によって、心温まるクリスマスがますます笑顔でいっぱいになった、大成功のプロジェクトとなりました。



子どもたちの元へ届けられるのを待つみのプレゼント

職員の方々からも可愛い!の声

子どもたちの元へ届けられるのを待つみのプレゼント

DEAR KIDS, DEAR THE EARTH vol.24

子供地球基金顧問 キヤドバリー・ジャパン 代表取締役社長 井上ゆかり氏

キヤドバリーは1824年にイギリスで創業された世界有数のお菓子会社です。日本では、1961年にチクレットというガムを導入して以来、クローレツ、リカルデント、ホールズ、そして、キシリクリスタルのど飴などのブランドを展開しています。

キヤドバリーは創業当時より地域貢献活動を行っており、ヨーロッパにはキヤドバリーがCSRの祖であるという文献も存在します。

現在でもオーストラリアでのクラウドクター（ピエロに扮した医師や看護士が長期療養中の子供に笑いや楽しさを届ける活動）、シンガポールでの“Touch a Life”（癌に侵された子供のサポートプログラム）、ブラジルでの恵まれない子供達のためのスポーツ施設や設備の提供など世界各地でさまざまな地域貢献活動を行っています。

日本でも地域貢献活動を支援したい、そんな思いが子供地球基金との出会いに繋がりました。昨年には、インドでキヤドバリーが行っている地域支援プロジェクトとの連携でアートワークショップを開催しました。“今まで色々なイベントをやってきたけれど、子供達がこんなに生き生きと嬉しそうに感情を表に出しているのは初めてです。”と現地スタッフが感動するほど、パワーのある絵がインドの子供達の手で誕生したのです。その一つは、弊社受付で毎日多くの大人を力付けてくれています。子供達に、子供地球基金に感謝しつつ、今後も、微力ながらお役に立てればと願っております。

二葉学園 ～クリスマス～



お披露目されたクリスマスツリー!!

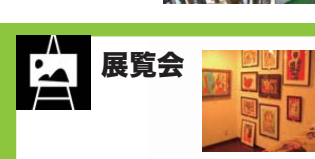
12月6日、晴れ渡るお天気の中、二葉学園でアートワークショップが行われました。テーマはクリスマス。まずはじめに、子どもたちは2つのグループにわかれて、ツリーのベースの色を決めることに。それぞれのチームが選んだのは、緑と赤。太い筆や刷毛を使い、それぞれの色一色に塗り上げ、きれいなツリーのベースの完成です。そしていよいよ、オーナメントを飾るようにペイント開始です。もう1本の真っ白いツリー、そして自分たちで色をつけた緑と赤、それぞれのツリーに、本物のツリーのようにかわいい飾りやきらきらした星を描く女の子もいれば、雪だるまやサンタクロースを描く男の子も。中には、手や足に絵の具を塗って、全身で絵を描いている姿も。皆、思い思いのクリスマス表現するなか、あちこちで楽しげな歓声が響いていました。

このツリーは子どもたちによって「ハートツリー～ぼくらの思いは、世界に届け!～」と名づけられ、クリスマス会の主役として披露されました。そこには誰もが本物以上に楽しく仕上がったクリスマスツリーを喜び姿を見て、子どもたちも大満足の様子でした。このツリーから二葉学園の子どもたちの思いが世界に届きますように。

東邦大学医療センター大森病院 ～クリスマス～

東邦大学医療センターでの初めてのアートワークショップは、クリスマスがテーマ。

何が始まるのかドキドキしながら待つ子どもたちの前に広げられたのは、大きなキャンパス。子どもたちは、様々な国の子どもたちが描いたクリスマスを見て「マジック」を信じて、待ちきれないといばかりに描き始めました。ツリーやプレゼントなど、クリスマスに向けて温かい思いがいっぱいの絵が完成しました。絵で思いを表現するという機会を子どもたちも楽しんでくれたようでした。



どれを貼ろうかな?

●東京・台東区
1/10(土)～3/8(日)
ギャラリー・アルカンジェリにて「世界の子どもたち、その喜びと悲しみと」

●東京・中央区
3/5(木)～
無印良品 有楽町店 2Fにて

●名古屋・中村区
7/1(火)～
豊田商
本社センター
豊田ビルにて

●東京・世田谷区
11/12(水)～12/25(木)
玉川高島屋S-Cにて
「ホワイトエンジェルプロジェクト」

●東京・新宿区
11/13(木)～12/25(木)
MUJI新宿 ATELIERにて

●東京・目黒区
11/1(土)～12/12(金)
東京都写真美術館S-Cにて
映画「War Dances」上映期間中

●カナダ・バーナビー
5/12(火)～5/16(土)
日系ヘリテージセンターにて
世界の子どもの絵画展

慈恵医大 ～新年の希望をふつつけよう!～

2009年最初のアートワークショップは、1月というところで、新年を迎えるの抱負や思いを絵で表現してみようというもの。

外は冷たい雨が降る寒い日でしたが、そんな天気を吹き飛ばそうとするかのように子どもたちの筆はどんどん進みました。お絵かきが大好きという一人の女の子は2枚、3枚とどんどん筆を進めていきます。中には、1枚の画用紙にいくつもの色を何度も何度も重ねてゆくじっくり派も。最初は遠巻きに見ていた子どもたちも、賑やかな雰囲気はひかれてやってきて、プレイルームはアートワークショップを楽しむ子どもたちでいっぱいになりました。

思う存分描いた子どもたちはみんな満足気な表情。たくさん笑顔が見られました。出来上がった絵を乾かそうと並べていくと、プレイルームの一角は、ちょっとしたギャラリーになり、看護士さんや保育士さんたちも見学にいらしゃいました。みんなの2009年は明るく、賑やかなものになりそうです。



たくさん色を重ねたよ!

慈恵医大 ～春を呼ぼう!～

慈恵医大での2月のアートワークショップのテーマは「春を呼ぼう!」。この日はあいにくの曇り空で肌寒く、春はまだまだといった感じでしたが、元気に春を呼び寄せようという試みです。ワークショップ前日、「春」をイメージして、ボランティアの方々が1つ1つ丁寧に作ってくださった、色紙のハートや花びら、動物などの可愛いパーツに子どもたちは大喜び。はじめから絵の具に手を伸ばし、絵を描き始める子どももいれば、まずは気に入ったパーツを貼り付けて行く子ども。みんな思い思いの春を描きます。徐々に仕上がってゆく作品はみんなとてもカワラル。子どもたちの力作に誘われて、一足早く春がやって来そうです。



どれを貼ろうかな?

二葉学園 ～大切なもの～

今回のテーマは「大切なもの」。まずは、クワアチアの子どもたちが描いた絵をヒントに、それぞれ大切なものについて考えてみました。僕たちが大切なものって何だろう?参加してくれた2歳から6歳までの子どもたちと初めて、改めて大切なものについて考えるのは、ほとんど初めてのこと。

ワークショップが始まって、中にはなかなか筆が進まない子ども。とは言っても、元気がいいの、二葉学園の子どもたち。まっ白だったキャンパスも、いつの間にか、虹や森、乗り物や動物など子どもたちの、大好きで、大切なものでいっぱいになりました。

元気がいいの絵が完成すると、それぞれ何を描いたかを発表する時間です。お友達や先生たち、ボランティアの皆さんを前に、大切なものを発表しました。アートワークショップを通して気づいた大切なもの、みんなの大切なものが、大人になってもずっとずっと残ってゆきますように。



キャンパスは大切なものでいっぱい

'子どもの絵でつくるキッズ・アース・ホームへのおくりもの'



無印良品のプロダクトデザイナーの方々ボランティア参加してくれました

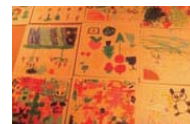
クリスマスが間近に迫った頃、MUJI新宿でアートワークショップを開催しました。ベトナム、そしてカンボジアのキッズ・アース・ホームの子どもたちのために、まっ白なバスルに思い思いの絵を描いてプレゼントしようというの。

集まってくれたのは1～12歳までの子どもたち。絵を描きはじめる前に、まずはホームの子どもたちの写真や絵を見ながら、ストリートチルドレンと呼ばれる子どもたちについての話に、真剣に耳を傾けてくれました。そして、遠く海の向こうに暮らす子どもたちへ、それぞれの小さな胸に小さく宿った温かい思いを色々なペンで描き始めました。まっ白だったバスルは、子どもたちの描く、大好きな動物や乗り物、宝物や楽しい思い出、そしてホームの子どもたちへのメッセージで埋め尽くされていきました。

今回の作品は海外のホームの子どもたちへのプレゼントとなるもの。バスルを持ち帰る代わりに記念の写真を受け取る、子どもたちは少し照れながら、一生懸命に描いた作品を寄贈してくれました。

そして2月、子どもたちのバスルは海を超え、ベトナムカンボジアのホームへ到着。心のこもったバスルに皆大喜びでした。今回のアートワークショップを通して、ベトナム、カンボジアの子どもたちと日本の子どもたちとの間にまた新たな友情が芽生えました。子どもたちの作品はWEBギャラリーでもご覧頂けます。

<http://ryohin-keikaku.jp/csr/gallery03.html>



見ているだけでも楽しいバスルの完成!